

6月7日は「県民スポーツの日」でしたが、スポーツ愛好者がますます増える本町でも、いろいろな大会が行われました。

スポーツ大会まっ盛り!

県大会優勝!

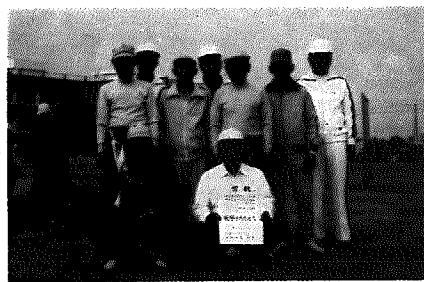
黒埼ゲートボール

ゲートボールは、一チーム五人編成の団体競技ですが、軽いスポーツとして高壮年者の中で人気をよんでいます。本町でも、過去に全国大会で優勝したほど盛んです。六月七日(日)、分水町の町営野球場で第十七回県民スポーツの日中央ゲートボール大会が開かれ、黒埼チームは見事に優勝しました。大会には、黒埼町から六名の選手が参加し、三名の審判員を派遣しました。出場チームは、新潟市や長岡市などからあわせて十六チームで、四チームごとに四つのリーグに別れて予選リーグを行いました。予選リーグでは、長岡Bに惜敗したものの妙高高原、新津Aに快勝し、二勝一敗で辛くも決勝

トーナメントに進出。決勝トーナメントでは、ようやく緊張感も解け、日ごろの熱心な練習が物を言い実力を発揮し、難なく優勝を決めました。この優勝を機会に、みなさんもぜひ一度ゲートボールをやってみませんか。黒埼町教育委員会はみなさんの要請があれば、用具持参で指導にあたりたいです。お問い合わせは、黒埼町教育委員会 社会体育係 ☎七二二二

なお、大会参加者は次のとおりです。

選手 大野金次郎(興野) 高橋利男(仲町) 入山山和男(興野) 高橋幸三郎(金巻) 畑山政雄(仲町) 時田時衛



賞状を手に、黒埼チーム



打ったノ春季大会

早起き野球大会勝敗表

(6/15まで) ○は抽選勝ち

H Oクラブ	5-0	貳組
下山田	4-2	シリオンズ
七区	7-0	木場トーチャンズ
K・Sスターズ	22-0	栄町
八区	11-2	黒埼町役場
仲町	6-4	マルヤマ・サッシーズ
柳田ババーズ	②-2	八割ジャイアンツ
金巻	4-3	興野ワイルズ
H Oクラブ	10-3	ドナクス
鳥原イーグルス	7-1	板井ブラザーズ
二之町	①-1	鳥原R&P
下山田	4-0	寺地団地
一心会	5-0	木場新田
黒鳥A	3-2	全選
新田町	9-2	黒鳥B
コメッツ	10-3	新町

(七区) 審判員 斎藤俊雄(興野) 飯田

光男(鳥原) 佐藤正(二ノ町)

早起き野球大会開幕

第五回黒埼町早起き野球大会が始まりました。六月七日(日)の開会式は、早朝五時から町営野球場で、坂井副議長、鈴木野球連盟会長など約七十名の関係者が出席して行われ、そして前年度優勝チームのクロトリAチームの江端年直さんが、力強い選手宣誓を行い開会式を終了。熱戦の次ぶたが切られました。また、黒埼町野球連盟主催の春季大会は、Aクラスは六月七日、B、Cクラスは六月十四日に熱い戦いの幕を閉じました。

- Aクラス 優勝 大洋クラブ 二位 アストロ
- Bクラス 優勝 黒埼町役場 二位 新潟スバル
- Cクラス 優勝 板井ブラザーズ 二位 フェニックス
- 二位 ライセンス
- 優勝 北陸技術
- 二位 ニューナインズ
- 三位 ハモナイズ

各種スポーツ

赤勝て!白勝て!

日差しはもう夏。風もなくやや雲が見られた六月七日(日)、町内の立山、山田、大野、木場、板井の各小学校で、運動会がいつせいに開催された。

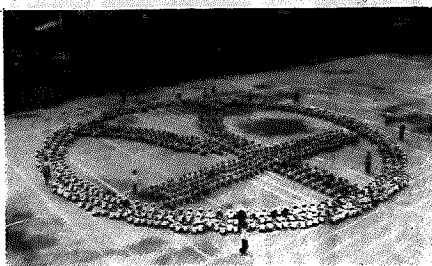
各小学校のグラウンドには、赤と白の帽子をかぶった子供たちと我が子の活躍を見ようと父兄の方



私が一等賞(立山小)

や、近所の方が集まり、盛大に行われました。競技の間に、応援合戦や父兄参加のタマ入れなどがあり、また大野小学校では、新校舎完成の喜びを児童全員で人文字を作って表わしたりしました。

この日は、一日中、各小学校の



感謝の人文字(大野小)

県身障者大会で上位入賞多数

第十九回新潟県身体障害者体育大会が、五月三十一日(日)、弥彦村総合グラウンドで開かれ、本町から参加した選手はよく健闘し、優勝一名、二位二名、三位一名の好成績をおさめました。

この大会は、新潟市、白根市、西蒲の二市一郡で、身体に障害をもつ人たちが毎年開いているもので、今年で十九回目を数え、体位の向上と体力の増強そして自立を目指して、終日明るい雰囲気の中で大会が行われました。

さらに今年には「国際障害者年」であることから、例年ない盛り上がりを見せ、選手も応援団も一体となって一日を思う存分楽しんでいました。

昔ばなし

渡し舟の開始と釣橋架設

西蒲と中蒲を結んで、永い間歴史的にも重要な役目を果たしてきた宝来橋は、安進丸の衝突で姿を消したが、早くも架橋したい希望は両岸村民の腹にあった。しかし、元々以前の宝来橋も年一回、米一升麦一升を収入と

する個人が架設した有料橋だった。そこで、再建は経済上容易でなく、当分は渡し船によるほかないという意見に傾き、大野側から佐藤富吉さん外数名、鷺巻側からは真柄敏太郎氏外数名で協議の結果、明治四十四年新しく渡し船開始の段取りとなった。

船の発着所は、材本吉三郎脇から加洲長六脇の小路とし、船は両村から一隻づつ出し、その費用は大野側は新地に委託し新地の負担とし、鷺巻側は鷺ノ木の負担とし、従ってその収入は各自の村に取得し、毎日の渡し賃は乗せた船の取得することに申し合せたものであった。

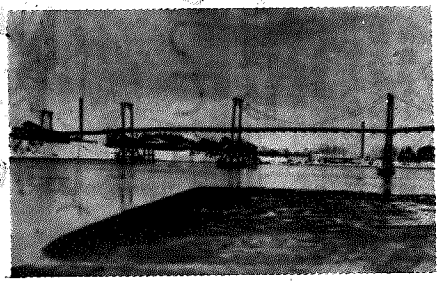
このようにして大正五年まで続けて来たが、不便を感じてきて両村民は大正四年ころから貨物架設の再現に歩を進め、翌五年具体的な実現運動に着手したのであった。同年一月大野惣代大坂駒吉氏と鷺ノ木真柄敏太郎氏は小須戸橋の古材を利用して、全長九十七間(一七五メートル)幅八尺の釣橋自営工事施行の請願を時の県知事坂仲輔氏に提出した。

ようやくここまで話が進んだ時一つの問題が持ち上った。それは新地対長居小路、仲町などの架橋位置の争奪問題である。利害関係区域住民は、県議や地方有力者を介して運動は激しさを増してきた。

栄町、長居小路、仲町などは、

町の体裁と利便上、長居小路の突き出しが適当というのに反し、新地側は我々四十八戸の死活問題だけなく、長居小路地先の漁業場はこのため中断せられ、漁船五隻、従業者十二人、年間三千万の所得が無くなるという、抗争は永い間続けられたが、結局新地中程古川勘平の小路に、架設をみたがその橋もやがては老朽し取崩しの運命となり、大野小須戸線が県道編入の後、大正十四年四月二十六日、県費の助成を受け木橋の大野橋が完成した。

(昭和六年発行、黒埼村報から転載)



大正四年に架設された大野つり橋。全長一七六メートル、幅二、四メートル。